

伝えたい、悲しい歴史

つもりっ子祭りで日奈久沖遭難事故再現

11月27日、津森小学校(澤田久夫校長、87人)で「つもりっ子祭り」が開かれ、同校児童をはじめ、保護者や地域の方々など約300人が「発表会」や学習田で取れた米を使った「おにぎりパーティー」、物品の販売などを楽しみました。

発表会の中で5年生12人は、「日奈久沖哀歌」と題し、昭和24年、同校5、6年生の修学旅行の際に起きた日奈久沖(八代市)での遭難事故を劇にして再現。22人の児童と指導者2人の尊い命が亡くなったことや懸命の救出活動などを精一杯発表しました。発表を終えた子どもたちは「こういう悲しい事故が二度と起きないように、ずっと伝えていきたい」と話していました。



事故の様子を劇で再現する子どもたち



大きく育ったジャガイモを収穫する参加者

大きいイモがいっぱい

益城っ子農業体験事業でジャガイモ収穫

12月5日、益城っ子農業体験事業(ジャガイモ収穫体験)が旧益城中央小学校敷地内の畑で行われました。

この事業は、町の農業委員と役場子ども課がタイアップして取り組んでいるもので、この日は、つどいの広場とんを利用している親子10組と農業委員5人が参加しました。

今年のジャガイモは天候にも恵まれ豊作。子どもたちは、「おっき〜い!」「たくさんできて〜!」と声を上げながら、用意した袋いっぱいにイモを詰めていました。

土に親しむことや収穫をとおして、親子のふれあいを深めた1日でした。

12月12日、町立第2保育所(宮川久代所長、80人)にトロッコがやってきました。このトロッコは、菊陽町在住の江藤信義さんが、トロッコ好きのお孫さんのため15年ほど前に手作りしたもので、その後ボランティアで、菊池郡市、益城町、西原村の各幼稚園や保育所の子どもたち

に夢を運んでいます。子どもたちは4、6人ずつトロッコに乗車。目を輝かせ「車掌さん切符をくださいー!」「いってきまーす!」「ただいまー!」と大喜びでした。江藤さんも「子どもたちの喜ぶ顔が元気の源。体力が続く限り続けたいね」と笑顔を見せていました。

町立第2保育所にトロッコお目見え

夢乗せて、「出発進行」



トロッコに乗り笑顔の園児たち